

乳幼児の転落事故防止

夏場は窓を開けることが多く、子どもの転落事故が増えます。

消費者庁は、以前から注意喚起を行ってきました¹⁾。2025 年 6 月 24 日には、6 歳未満の子どもの住宅の窓及びベランダからの転落死亡事故 134 件（1993 年から 2024 年までの 32 年分）の発生状況を調査した報告書を公表しました²⁾。窓からの転落は 1 歳が最も多く、次いで 2 歳が多くなっています。ベランダからの転落は 3 歳が最も多く、次いで 4 歳が多くなっています。134 件中 65 件は保護者が在宅中に起こっています。

報告書の中で、以下のような再発防止策が記載されています。

（１）転落防止対策をした住宅の普及

（２）転落防止用製品の研究・開発

（３）転落に至るプロセス及び転落事故防止方法の周知啓発

（１）（２）に関しては、国土交通省もガイドライン³⁾や通知⁴⁾を出しています。

（３）に関しては、子どもの発達や行動への理解が重要になります。

すなわち、3～4 歳は言葉が使えるようになるとともに想像力・創造力が豊かになります。子どもが手足をいっぱい動かして、達成できたという喜びを十分に満たせるよう、屋内外の遊び環境も時間も充実させましょう。

一方で危険を理解し、注意して行動することは十分にできないことを周りの大人が知っておくことも必要です。また、高所で暮らすことで子どもが危険な高さに慣れてしまうことも考えられます。

保育の現場からも子どもの転落事故防止の啓発が必要と考えます。

- ・ベランダを子どもの遊び場にしない。
- ・子どもだけを家に置いて外出しない。
- ・理解できる子どもには、繰り返し危険性を説明する。
- ・環境整備
 - ① 窓やベランダの出入口の子どもの手が届かない所に、補助錠やストッパーを付ける
 - ② 窓の近くに足がかりとなる家具などを置かない
 - ③ ベランダの手すりの近くに足がかりとなる物を置かない。

1) 子どもの転落事故に注意! - 落ちるまではあっという間です。事前の対策で事故防止を –
(消費者庁 2022 年 7 月 20 日)

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_061

2) 住宅の窓及びベランダからの子どもの転落事故 (消費者庁 2025 年 6 月 24 日)

https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_025

3) 「子育てに配慮した住宅と居住環境に関するガイドライン (改訂版)」

(国土交通省 国土技術政策総合研究所 2025 年 3 月 3 日)

<https://www.nilim.go.jp/lab/hbg/kosodate/guideline.html>

4) 通知別添 (国土交通省 国土技術政策総合研究所 2025 年 7 月 2 日)

https://www.zentaku.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/06/通知別添_250702_修正.pdf

2025 年 8 月

事故予防・安全対策委員会